

いのちいっぱい 感動いっぱい ～ ありがとうの旅を続けよう！～

令和5年度のスタートに当たって

22名のかわいい1年生と5名の新スタッフを加え、令和5年度の喜須来小が船出をしました。皆様からの本校教育活動への御支援、御協力をいただきながら、子どもたちの充実した1年となりますよう、全力を尽くしたいと思います。どうか、今年度もよろしくお願いします。

今年度の喜須来小キャッチフレーズは、“いのちいっぱい 感動いっぱい ～ありがとうの旅を続けよう～”です。昨年度は、“げんきいっぱい いのちいっぱい ～ありがとうの旅に出よう～”でしたが、「げんき+いのち+いのち」と捉え、新たに「感動」という言葉を。そして、ありがとうの思いを基盤に教育活動を続けたいという思いで、「ありがとうの旅を続けよう」としました。相田みつをさんの言葉に、「感動とは感じて動くと書くんだなあ」という言葉があります。著書の中で「感動」をこう綴っておられます。

「感じたら具体的に動く。動くのは自分。それは、他から強制されたり、命令されたりして、しぶしぶいやいや動くのではなく、自分の気付きと意志で、喜びを持って動くこと。つまり、感動とは常に自分が自分の主役となって、いきいきはつらつと動くこと。」



〔23名の喜須来小スタッフです〕

今年度も、家庭、地域、そして学校が一体となり、“いのち”“感動”“ありがとう”を目指します。

【学校の教育目標】 心豊かに、たくましく、明日をめざす 喜須来っ子を育てる

【キャッチフレーズ】 いのちいっぱい 感動いっぱい ～ありがとうの旅を続けよう！～

【喜須来小エール】 がんばっていきましょい！（しょい！）

【喜須来小おきまりポーズ】 どすこいポーズ〔右上写真〕 【喜須来小学習スタイル】 どすこいタイム

なんと あの時の！

平成20年3月から10年間、縁あって八幡浜市の複数の中学生が、毎春大分県の老人ホーム施設に日帰りで訪問する活動が続きました。毎年50名近くの中学生在が、朝6時20分の別府行きフェリーに乗り込み、おじいちゃんやおばあちゃんたちとたくさんのふれあいをして帰ってくる訪問活動でした。別府の湯煙が見えてくると、「今年も来ることができたね。」と言葉を交わしたものです。わずか1日の活動で、かなりハードだったのですが、子ども達と施設利用者さんたちとの充実した活動、そして、涙々のお別れに、「来春も必ず！」との決意で九州に別れを告げていました。

さて、この10年間の中で、9回目の訪問に、これも縁あって三崎中学校（三中しあわせ運び隊）から10名の生徒たちと先生が、八幡浜市のこの活動に参加してくれました。私たち八幡浜組は別府港へ。三崎中組は佐賀関港へ。私たちは、別府港からバスに乗り込み佐賀関港へ。そこで三中しあわせ運び隊と合流し、豊後大野市の2施設へ向かったのです。

春になると、なにげにその時のファイルを開いて見るのですが、今春偶然にも、三中しあわせ運び隊10名の中に“浅野さやか”という名前を見付けました。「ひょっとして、これは本校に勤務する予定の新規採用の先生では？」と思い、着任後本人に尋ねてみると大正解でした。本当に驚きました。あの時に参加してくれた中学生が、もうこんなに大きくなって、そして、教師という職業に就き、しかも、同じ職場で働くようになるとは…。一期一会の不思議さを感じずにはいられませんでした。中学生だった浅野先生は、当時こんな感想を書いてくれています。

「（前略）この活動が、たくさんの方々の心の中にしっかりと根付いていることを感じ、感動しました。三崎中もこの活動に参加させていただき、これほど嬉しいことはありません。本当に良い経験ができました。ありがとうございました。」

小さな温もり

3月のお別れには、転任される先生方に対して、皆さんや子どもたちから、たくさんの温かい言葉やプレゼントをいただきました。4名の先生方に代わって、御礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて、笑い話ですが、子どもたちは、それぞれがお手紙やプレゼントを家で用意し、先生方に持ってきて

てくれていました。ある日、お手紙を手にした一人の女の子に出会いました。私は、女の子に「あつ、ありがとう。」と冗談で声を掛けました。すると、その女の子は、私にこう言ったのです。

「違います。校長先生は、来年です！」

私は、その言葉が少し嬉しかったのです。

離任式の出来事

3月30日に行われた離任式には、多くの保護者の皆様が、離任される先生方のお見送りに来ていただきました。本当にありがとうございました。「喜須来小の離任式は、こんなに多くの保護者の皆さんが来られるんですね。驚きました。」と教頭先生が私につぶやきました。私も同じことを感じていました。

さて、離任式の日のお話を二つ。

離任式の最後は、離任される4名の先生方と一緒に歌う「校歌」でした。どんな校歌になるか楽しみにしていましたが、この1年を物語る全校児童の元気で明るく、張りのある声で歌い上げた最後の「校歌」でした。私は、その歌声に感動していました。

すると、歌い終わった瞬間、Tくんが「拍手ー！」と叫びながら、拍手をし始めたのです。突然のことで、私も含めてうまく彼の気持ちに反応できなかったのですが、周りの空気が温くなり、その叫びの意味を理解していました。目の前には、Tくんと多くの苦難を乗り越えてきた山本留美先生の姿。Tくんにとっては、山本先生との別れは最大の悲しみであり、その叫びと拍手は、最大の感謝の表れだったのだと思います。Tくんに感謝です。

もう一つは、集団下校時のお話です。子どもたちは、4名の先生方を前に最後のさよならをして、集団下校で家路につきました。登下校班は、すでに新班長・副班長の下で行われています。つまり、卒業をした6年生は、小学校最後の集団下校を最後尾で行いました。子どもたちが門を通り過ぎた頃だったでしょうか。一人の6年生女子児童が、走って私のところまで戻ってきました。そして、こう言ったのです。

「校長先生、今までありがとうございました。中学校でもがんばります。」

この日、6年生にとっても、最後の小学校への登校。最後のありがとうを素直に伝えてくれたのです。次年度のキャッチフレーズを考えていた私ですが、彼女のおかげで、「ありがとうの旅を続けよう」と決意できたのです。

やる気に満ちた張りのある声



4月7日。6年生が学校開きの準備に来てくれました。雨が降っていましたが、一生懸命動く6年生に、さわやかさを感じました。準備後、新任式と入学式で代表あいさつをしてくれる児童会長、井関竜大くんと副会長、上田瑛斗くんが練習をしていました。その練習態度と張りのある声に、私は大きな勇気をもらいました。「さあ、がんばろう！」そう思ったのです。



1年生の保護者の皆様へ

本日お配りしたお子様の安全を守るグッズは、以下の方々から寄贈されたものですので、ご了承ください。寄贈していただきました関係機関の皆様、ありがとうございました。

- 安全笛（日本マクドナルド株式会社） ○ 防犯ブザー（八幡浜市教育委員会）
- 交通安全ランドセルカバー（日本コープ共済生活協同組合連合会）
- 傘（喜須来地区補導員会）〔突然の荒天時用として、学校に保管〕

春風やプレハブ校舎の笑い声

昨年9月から全校児童・教職員で生活していたプレハブ校舎の解体が、先日始まりました。わずか半年間でしたが、全校児童や先生方の声が近くで聞こえ、そして、何よりもお互いの笑顔や活動の様子が手に取るように見られたことが、一番良かったことだと思います。いざ、解体されるとなると寂しい感じがしますが、喜須来小の歴史の1ページとして、心にしっかりと焼き付けたいと思います。

